

セキュアアプリケーションプログラマ

- ▶ 対象
 - アプリケーションプログラム開発者

 - ▶ 資格取得後のスキルセット目標
 - セキュリティのデザイン仕様にも基づいたコーディングができる。
 - 言語に特化しないセキュアなコーディングベストプラクティスを使ったコーディングができる。
 - WEB アプリケーション特有なセキュリティの脆弱性を理解している。
(HTTP 通信と変数、隠しフィールド、クライアント側スクリプト、コード内のコメント、インジェクション系攻撃、ブルートフォース、セッション管理、符号化、など)
 - 全言語に共通した脆弱性について理解している。(バッファオーバーフロー、レースコンディション、入出力検証など)
 - 言語に特化したセキュアなコーディング技術を使つてのコーディングができる。
 - 認証方法 (Authentication)、承認方法 (Authentication)
 - 通信 (Communication)、暗号化 (Encryption)
 - 例外処理 (Error Handling)、ロギング (Logging)
 - 入出力検証 (Input/Output Validation)
 - データベースアクセス (Database Access)、プライバシー (Privacy)
 - インジェクション (Injection)
 - アーキテクチャに特化した脆弱性 ほか
 - セキュリティの問題を発見するためのコードレビューができる。

 - ▶ 教育カリキュラム内容・試験出題項目
 - セキュアコーディング手法 (言語非依存・言語依存)
 - ASP.NET (C#またはVB)、Java
 - コードレビュー手法 (言語非依存・言語依存)
 - ASP.NET (C#またはVB)、Java
- ★コースは言語別に分かれます。
-
- ▶ 試験で問う知識
 - WEBアプリケーション関連のセキュリティコーディング・ベストプラクティスの理解度を問う。
 - 言語依存のセキュリティコーディング・ベストプラクティスの理解度を問う。
 - コードレビュー方法の理解度を問う。